

## ⑤7 国道252号本名バイパス整備事業

受賞機関 福島県 会津若松建設事務所

**キーワード** モルタル吹付と支保工建込み作業の同一機械での実施、施工の合理化、本名トンネル

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

事業区間の7割をトンネル及び長大橋が占めるバイパス整備。モルタル吹付と支保工建込み作業を同一機械で実施するなどトンネル施工の合理化を図るとともに、積極的な住民見学会の実施により地区内外の住民の理解を得ながら事業を完成し、屈曲線形や幅員狭小といった現道の課題を回避できるバイパス道路を整備した点が評価された。

### 1. はじめに

国道252号は新潟県柏崎市を起点とし、会津若松市に至る延長179kmの幹線道路で、地域間の物流や観光及び沿線住民の生活を支える重要な路線である。そのうち、当該事業区間は、道路線形が屈曲で幅員狭小となっていることに加え、平成23年新潟・福島豪雨において冠水するなどの課題があった。

このため、東日本大震災からの復興を強力に支援する道路として、「福島県総合計画（ふくしま新生プラン）」及び「福島県復興計画（第3次）」の「復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト」に位置づけられたものである。

### 2. 事業の概要

事業区間である金山町大字本名地内の現道は、本名ダムの堤頂を通るため、2か所で直角に曲る線形や本名スノーシェッド内の幅員狭小区間があり、安全性の確保が課題となっていた。また、平成23年新潟・福島豪雨により国道252号が1週間の通行止めとなるなどの浸水被害を受けたことから、それらの解消を図るため整備を実施したものである。



終点部から柏崎方向を臨む（現道状況）

事業区間の7割をトンネル及び長大橋が占める難易度の高い工事であり、特にトンネル工事では、早期完成に向けて施工期間の短縮を図るため、モルタル吹付と支保工建込み作業の同一機械での実施や、インバート栈橋の導入によるトンネルの掘削作業とインバート施工の並行作業の実施、CIMを利用した情報化施工など、施工の合理化を行った。明かり部の舗装工時においても、ICTによる施工を実施し、施工精度の向上を図った。

また、事業の進捗状況の周知、建設現場の理解を深めてもらうことを目的とした、積極的な住民見学会の実施により、地区内外の住民の理解を得ながら事業を完成させた。

### 3. 事業の成果

今回の開通により、災害に強く安全で円滑な交通確保及び沿線住民の利便性や救急医療施設等へのアクセス向上が図られた。それに加え、国道252号と同じく平成23年新潟・福島豪雨により被害を受けたJR只見線も令和4年10月1日に再開され、更なる観光や地域産業の振興が図られるものと期待されている。



令和4年1月20日 開通式の様子

### 4. おわりに

本名トンネルを含む約2.7km区間は、地域特有の多くの課題を乗り越え、令和4年1月20日に供用することができた。これもひとえに地域の方々や関係機関の御理解と御協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

賛助会員 会津土建(株)、(株)安藤・間、(株)ピーエス三菱、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)長大、(株)ニュージェック、滝谷建設工業(株)